

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871900429		
法人名	医療法人 つくばセントラル病院		
事業所名	グループホーム たいせつの家		
所在地	茨城県牛久市上柏田1丁目17番地20		
自己評価作成日	平成21年12月31日	評価結果市町村受理日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成22年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設も6年目となり入居者が重度化しているにも関わらず、身体的・精神的に安定した日々を過ごしています。その要因として往診医(週に一度)があり、法人機能を利用した他職種、PT・ST・管理栄養士等と介護士・看護師間の連携が蜜になっている点であり、又職員離職率が前年・前々年より比較して少ない点にあると思います。そういった環境と体制がアピールしたい点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の一斉清掃や防災訓練など地域との活発な交流を続けるかたわら地域の方々認知症ケアの相談を受ける、看護学生の実習を引き受ける、ヘルパー養成講座を開講する等、地域貢献も積極的に行っている。また、殆どの家族が出席して2ヶ月に1回家族会を開催して、ホームの運営やケアサービスの質について様々な意見や提案を出し合ったり、利用者・家族・職員と一緒に旅行をする等、家族とホームは共に利用者が幸せな日々を過せるよう協力している。利用者は日々の散歩や図書館、息子の家に出かける等それぞれ個別の外出に加えて、行事として季節ごとの外出も楽しんでいる、中でも地元劇団の定期公演は最員の役者の出番に喜び、人情物の演目には涙を流す等、テレビとは一味違った体験ができることから多くの利用者が楽しみに待っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と共に施設独自の理念を掲げている。常に見える所に掲示して職員一同申し送りなどで確認しながら共有している。	全職員は、法人の理念やホームの理念について定期的な会議で話し合いをし共有に努めている。また、利用者の状態を見守りながら理念がケアに反映されているかどうか常に振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の位置する自治会に加入している。回覧、運営推進会議などを通して入居者が参加出来るよう取り組んでいる。	自治会の一人として地区の一斉清掃や行事に参加したり、地域の方々から認知症ケアの相談を受けたりと日常的に地域と深いつながりをもった付き合いをしている。また、敷地内のクローカー場を地域の高齢者に開放する等地域との交流を積極的に進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に発行している新聞を通して入居者様の生活や過ごし方を公開し配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している運営推進会議の議事録がある。その議事録を市町村と区長に提出している。	市の高齢福祉課の職員、地区長、家族会代表等が出席して2ヶ月に1回開催している。会議では外部評価の結果やホームの現況報告をしながら様々な気づきや意見・要望をいただき、ケアサービスの質の向上に活かしている。改善に向けた取り組みの結果や状況は次の会議で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市職員が来訪し職員と意見の交換をしている。その後市からの報告書を職員間で閲覧している。	市の介護相談員が毎月ホームを訪れたり、市の担当職員がホームを訪れたりする機会に、ホームの取り組みや利用者の生活ぶりを積極的に伝えており、市の担当者とは必要に応じて何時でも相談できる関係の構築ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、身体拘束防止のポスターが玄関に掲示してある。又、家族に対する同意書がある。	全職員は身体拘束による弊害についても十分に承知しており、身体拘束についてのマニュアルを基に新人教育を実施すると共に、常に全職員は具体例を挙げながら勉強している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村で開催されている勉強会に参加している。伝達、報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し月例会や会議の時に伝達、報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	同意書があり、記銘・捺印している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、家族の代表を議長とし職員が書記を務め意見の交換を行っている。月に一回行っている。	殆どの家族が参加して定期的に家族会を開催し、意見や要望を積極的に出していただきホームの運営に反映している。意見・要望や検討事項は記録に残し、欠席した家族へも文書で知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム会議があり、議事録を作成し閲覧している。運営者は、会議の内容等に関して、週に2回ある法人のミーティングに参加し報告している。	人事考課を実施しており、一人ひとりと面接の際に各人の要望等を聞いている。法人間での異動もあるが職員の実情に合わせながら実施している。ホームの運営についての意見・要望は毎月の会議で話し合い、法人の会議で検討・反映するシステムが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で人事考課を取り入れ年2回チャレンジシートを通して個別面談、評価、アドバイスをやっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職能要件に沿った年間研修計画書を作成し、職員に研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	牛久市ケアマネ連絡協議会や県南ケアマネ研修会等に参加し事例問題を共有し、お互いのケアの質の向上に取り組んでいる。現在グループホーム連絡協議会発足を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、アセスメントを取り、以前利用していたケアマネジャーより情報を収集している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、場合によっては訪問相談し情報を収集している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用者様やご家族様に見学して頂き、お試しが出来るシステムになっている。相談を受けた時点で家族からも話を聞き、問題行動などないか把握している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	裁縫の縫い方等を教えてもらったり、食事作り・掃除・洗濯等日常生活の家事援助を双方で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊は自由である。また、ご家族様の訪問時には、入居者様の様子を細かく報告し、状況の変化は時間をおかず伝えている。行事の際にはご家族様に参加して頂けるよう連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話が使用出来、葉書や代筆等をするように努めている。葉書や郵便物が届いた際には、個人の居室へ持って行くようにしている。	利用開始以前の生活の様子を把握しており、在宅時に親しくしていた方々との関係が途切れないよう遊びに来てもらう等の支援をしている。また、図書館に行く、歌を歌う等の趣味の継続や遠方の子どもの家に泊まりに行く等の支援も積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置には考慮し、気の合う者同士で座れるようにしている。入居者様同士が関われるような、共同で作成するレクを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中はお見舞い・死亡の場合は葬儀に参加している。サービスが終了した方の家族に対しては行事の案内やボランティアのお誘いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行事やレクリエーションを行う際には、事前に1人ひとりにアンケート取ったり、希望を口頭で聞いたりしている。	夜勤時や入浴時のゆったりした時間に落ち着いて話を聞くようにしている。また利用者一人ひとりの特徴を把握して、表情の変化を見逃さないようにして声かけのタイミング等に心配りしている。利用者のその時々思いの表出は記録して全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に取ったアセスメントや家族からの情報を職員に周知出来るようカルテに挟んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プログレスノートに記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やモニタリングを開催し全職員から意見やアイデアを聞く為アンケートを実施している。	利用者一人ひとりの思いや意向、家族の意向などを踏まえて、毎月1回カンファレンスを実施し全職員の気づきや意見をだしあい、日々の生活に根ざした利用者本位の介護計画を作成している。モニタリング総括表を用いて定期的・随時の見直しも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りやカンファレンスを利用し、問題の多い入居者様に対し個別のノートに記載したり全入居者様に対して経過記録を記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化した場合の受け入れ先を(老健・特養)確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアが訪問され、歌謡ショー等楽しんでいる。消防署と協力し避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が近隣にあり、医師が週1回往診に来ている。定期的に検査が行えるシステムになっている。	利用以前の主治医、専門医、協力医院の受診等利用者の希望にそって必要な医療が受けられるよう支援している。各医師からの話は文書で伝えていただき、それぞれの医療機関が連携できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護経過の中に看護師の記載の欄があり、伝達交換している。又、たいせつの家に看護師が2名配置されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、入院前には診療情報提供書・介護サマリーを作成し、退院時には看護サマリーを頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	在宅療養クリニックと連携し、訪問医や訪問看護が支援できる体制となっている。又、見取りに関するマニュアル、同意書がある。	利用者や家族の事情に合わせて話し合いをしながら終末期のケア方針を決めている。看取りを希望される場合には、看取りに関する指針、同意書を整えて終末期ケアに当たっている。同意書は利用者の変化に応じて1ヶ月見直しを行い、より適切なケアが出来るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり勉強会をひらいている。又、普通救命救急講座とAED講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。	火災や災害時に備えて夜間想定も取り入れて避難訓練を定期的実施している。さらに、地域との協力体制を整え、職員間では緊急連絡網を整備して何時でも駆けつけられるようにしている。災害時の避難場所も明確にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を「自由性を尊重し、自由とプライバシーを確保する」と掲げている。接遇委員会を設け、委員会に出席している。	利用者の心にそった言葉かけが出来るように具体的な例を挙げながら訓練を行っている。利用者一人ひとりの思いを大切にし入浴時には同性介助を実施している。写真掲載やビデオの作成等個人情報に関する事柄の取り扱いには常に同意書をいただいで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	大活字本の一覧表があり、そこから借りてくる本を選んで頂いている。また誕生会の際はお茶の種類も選んで頂いている。散歩に出かけたいか・買い物と一緒にいくか、聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に出かけたり、居室で音楽を聴いたり、本を読んだり歩行の練習をしたりと個人のペースに合わせた生活が送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に来訪する移動美容室を入居者様の希望により利用している。また、その日に着る服を本人に選んで頂いたり、化粧をする方には時間を取って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事箋にて嗜好や力を管理し、定期的な行事で楽しんで頂いている。	利用者一人ひとりの好みを取り入れてテーブルクロスをつくったり、テレビを消してBGMを流す等の工夫をしており、職員は利用者のペースに合わせた食事介助をしながら一緒に食事を楽しんでいた。また、家族と一緒に的外食や行事食等雰囲気を変えて食事が楽しくなるような配慮もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分の管理を行い、記録に取っている。献立表を管理栄養士が管理している。台所にカロリー制限や禁止食品の表が貼ってある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔マニュアルがあり、チェックも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄チェック表を基に排泄パターンを把握し、声掛け誘導をしている。日中オムツ外しを実施している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに合わせてパットやリハビリパンツを利用しながら排泄の自立に向けた取り組みをしている。日中は全員がトイレで排泄できるような支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取表・排泄表にて管理し、毎日体操を行っている。食物繊維を希望に応じ購入、取るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎回入浴日・回数は入居者様の希望を取り行っている。また他の入居者様との混浴を回避している。拒否があった場合は時間を空けて声かけしている。	利用者の希望に合わせて何時でも入浴できるようにしている。柚子湯等季節を楽しむ工夫や入浴剤等も利用者の好みに合わせて使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の睡眠パターンを夜勤日誌にて把握し、日中は活動を促し夜間安眠できるように心掛けている。眠れない方には、ホットミルクを提供したり、相手の話に傾聴を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々にケースを用意し朝昼夕と分け誤薬がないよう管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみ・野菜の下拵え・縫い物などの家事援助をし役割を与えている又カラオケの好きな方には発表の場を設け練習の時間を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族会があり二ヶ月に一度家族と共に外出する機会を設けている。また月に一度花見や外食などの行事を行っている。	日常的な散歩以外にも買物の為の外出や図書館や観劇等に頻りに外出している。利用者によっては息子の家に出かける事もある。また、ホームの行事としての外出や家族会での旅行等、様々な機会を得て外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人愛用の財布があり、買い物時には本人に持たせている。又、小遣い帳で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話にて対応している電話を掛けたい方には100番通話を利用して気軽に使えるようにしている。手紙は人によって代読、代筆をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事やおやつの時間に音楽を流したり、フロアには絵画や入居者様の作品を飾っている。吹き抜けになっており自然の採光が入るようになっている。	ゆったりとした居間やウッドデッキ、外を大きく眺める事の出来るフラットの窓が数ヶ所にあり開放的になっている。所々に椅子が置かれそれぞれが気に入った場所で過せるようになっている。利用者の状態を考慮しながら季節を感じさせるお雛様が飾られていた。トイレ、浴室、洗濯場等も清潔で利用者の安全に十分な配慮があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキにはイスやテーブルが置いてあり、外でお茶が飲めるようになっている。外の景色を見たい方のためのソファが置いてある。畳の腰掛けがあり、一緒に洗濯物をたたむ事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの絵や写真を飾ったり、馴染みの家具を持ってきて頂いている。	家族と相談して「位牌」や写真を置いてご主人の冥福を常に祈っている利用者や趣味の読書を楽しんでいる利用者等、それぞれが昔の思い出の品々に囲まれて安心して暮らしている様子が見られた。また、家族が頻りに訪れていることで部屋に荷物が少ない利用者等、それぞれがその人らしく居心地良く暮らしている様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーであり、要所に手すりがついている。洗面所やトイレの高さは低く設置してある。又、居室には名札がついている。トイレも場所によって表示してある。また、出来ることの家事援助表がある。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に要する期間	
1	10	入居者様やご家族様から、行事に対する意見が聞かれない。	色々な意見を抽出し行事に反映していきたい。	家族会の時や家族参加の行事時は毎回、アンケートを実施し統計・分析して、抽出した内容を反映した行事を実施する。	6ヶ月
2	2	自治会の一員として地区の一斉清掃などに参加しているが、現状としてその他の活動(防犯パトロール等)の参加が活発ではない。活発な参加となるよう入居者様を支援していく。	地域の方との交流を深め、行事等だけではなく防犯強化となる活動や近隣の小学生等との交流を通して積極的な社会参加を目指していきたい。	定期的に行われている防犯パトロールや学童通学路でのパトロールへ、地区の方と連携を図り調整して参加していく。その際、入居者様と顔見知りとなるようにして近隣との交流を深める。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。